

# プロジェクトとしてのダンス

大澤苑美 (八戸市まちづくり文化推進室 芸術環境創造専門員)



「自ら進んで挑戦する意志と行動に新たな発見がある」をテーマに、ダンスを愛する若者が集い、自分の可能性を信じて自分の作品を踊る企画「ダンスプロジェクト」。第8回目の今回は、出演する踊り手として、また舞台を支える裏方のスタッフとして、高校生を中心に合計25名の若者が参加し、3月18日(日)会場となったスペースベンに大きなうねりを生み出した。

には、練習のときから女子たちの黄色い声が飛んでいた、さわやかなB・B・O・Y「八戸高校ダンス愛好会(淵澤寛 崇・橋本樹・盛田孝介・熊谷直人・宮古達矢)」。それぞれ踊り手の個性が色濃く出ていたように思う。



る。「プロジェクト」は「Project」つまり、自分の生み出すイメージを、前に、未来に、そして社会に向かって投げつけて映し出してみることをさす。必要なのは、生徒として誰かに「習う」モードから、自分の手に自由と責任を握りしめて「つくる」モードへのギアチェンジ。自分の踊りやステージを作ることで、社会に通じる道を自分でこじあける、そんな場がこのダンスプロジェクトの真の意義ではないだろうか。

踊りのジャンルは問わないため、披露されるパフォーマンスはバラエティ豊か。パレエをベースとしながらも、異なる雰囲気を持つふたりでペア作品を作った杉本玲菜・小滝絃乃、自分で色を染めて作った衣装を着てたおやかに踊った高橋郁のモダンダンス、マドンナやアブリル・ラビーンなど軽快な音楽でヒップホップを踊った女子チーム「SARMONDIM」(前田蓮・川村光希・大澤奈々・板橋沙希・福山愛李・藤田菜穂)、「唯一の社会人参加となった」天下

私は、本番だけでなくリハーサル等にも、立ち会わせていただいたのだが、この企画を主催する昆賀子先生が、ことあるごとに「一歩前に出て自分から行動するってことなんだよ」と繰り返し参加者に声をかけていたのが印象に残った。誰かがつくってくれた振付けを写すにとどまらず、誰かがお客さんを集めてくれるのを待つのではなく、明かりがあつて音楽が響くことに当たり前にならないこと。そう、この企画は「発表会」ではなく「プロジェクト」なのであ

そもそもダンスは、自分の身体一つで勝負する覚悟が求められる表現である。音楽や照明、衣装、場所の力を借りることは大事だが、踊る身体そのものに説得力を求めたい。でも、若いのであれば、難しく考える必要はなし。踊ることにも生きることに、バカになるくらい楽しんで踊り狂ってみればいいだけのこと。上手じゃなくても、身体が柔らかくなくても、もつと言えば、ダンスを習わない人にだってダンスがある。ダンスとは、この身体でしかできない自分の生き方を全力でかけぬけることの先に、ふと身体からこぼれ落ちる表現なのだから。

露した四戸彩有里。そしてラスト



は「発表会」ではなく「プロジェクト」なのであ



写真：昆明夫

Friday Amusement Negative Shop

○FANS 予定(948~951回) タイトル:だべり場2012.04/構成:FANS ※入場無料。自由放談。  
join-fans-info.tujb@ml.freeml.com に空メールを送ると、公演情報案内のメーリングリストに登録できます。

演劇空間  
スペースベン

■八戸市柏崎1-11-8  
TEL. 0178-43-9876  
FAX. 050-3588-8350  
携帯. 080-6025-0990

※特別番組以外 金曜日は午後7時30分~、土曜日は午後2時~  
料金/一般前売400円 高校生以下100円(当日100円増)  
※チケットはスペースベンにて販売。スペースベンの上演内容は、ホームページまたはメールマガジンでご確認下さい。[HP] <http://spaceben.com/> [Eメール] [owner@spaceben.com](mailto:owner@spaceben.com)

## 4月号好評発売中!

●今月のテーマエッセイ 学校・教室

- ラブレター事件? ..... 小川 芳 樹
- 読書する教室..... 石橋 紀子
- ウイスキーがお好きでしょ! ..... 石橋 秀成子
- 広がる教室..... 石橋 昌子
- 村塾..... 石橋 勝子
- 校舎..... 石橋 泰子



### ●今月のインタビュー

日本美術家連盟会員

小川芳勇樹さん(52歳)に聞く

読む楽しさ **読物満載**

毎月ご愛読ありがとうございます

発行所/うみねこ出版社

八戸市六日町10いわとバルコ3F  
TEL-FAX 0178-44-6636